

「安政二年五月二日 日記」挿入絵図 【稻生家文書 No. 一四】

小笠原越中守知行所江流来空船之図

一 享和三亥二月廿二日昼時、常陸国原舎り濱と申處へ図の如く空船一艘漂着いたし申候、多く船人を出し引上ケ候処、年頃二十歳計りなる美婦人一人有之、言語不通丈ケ五尺計、色少し青白く眉毛髪毛とも赤黒く歯白くこまかにして、右婦人式尺四方程なる箱壺ツ所持致し
大切成物、人を近寄席不申拒候、手をはなし不申候、

一 敷物躰やわらか成もの 二枚

一 喰物とおぼしき物
又ハ肉類ねりたるもの有之

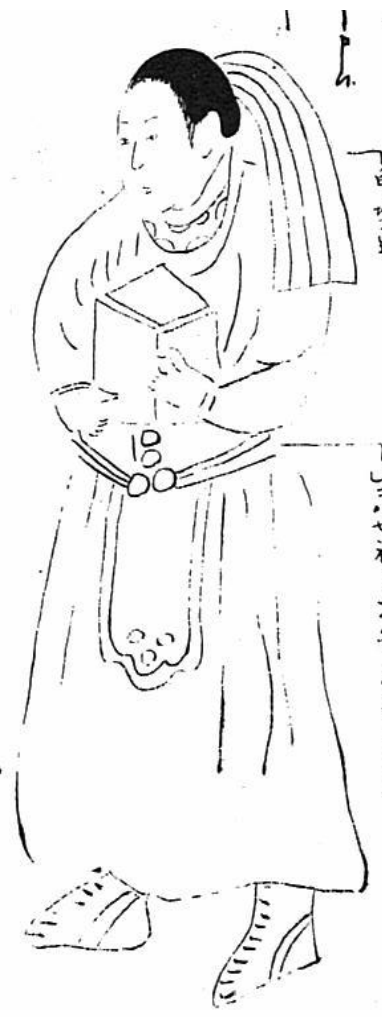
一 茶碗の様物 壺
此品甚美敷く
もよふ有之
石とも見へ不申候、

白ク地不知

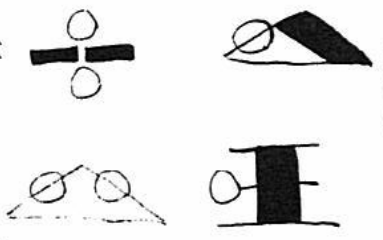
此コハセねり物にして青し

白ッせまね

コハセねり物にして青し



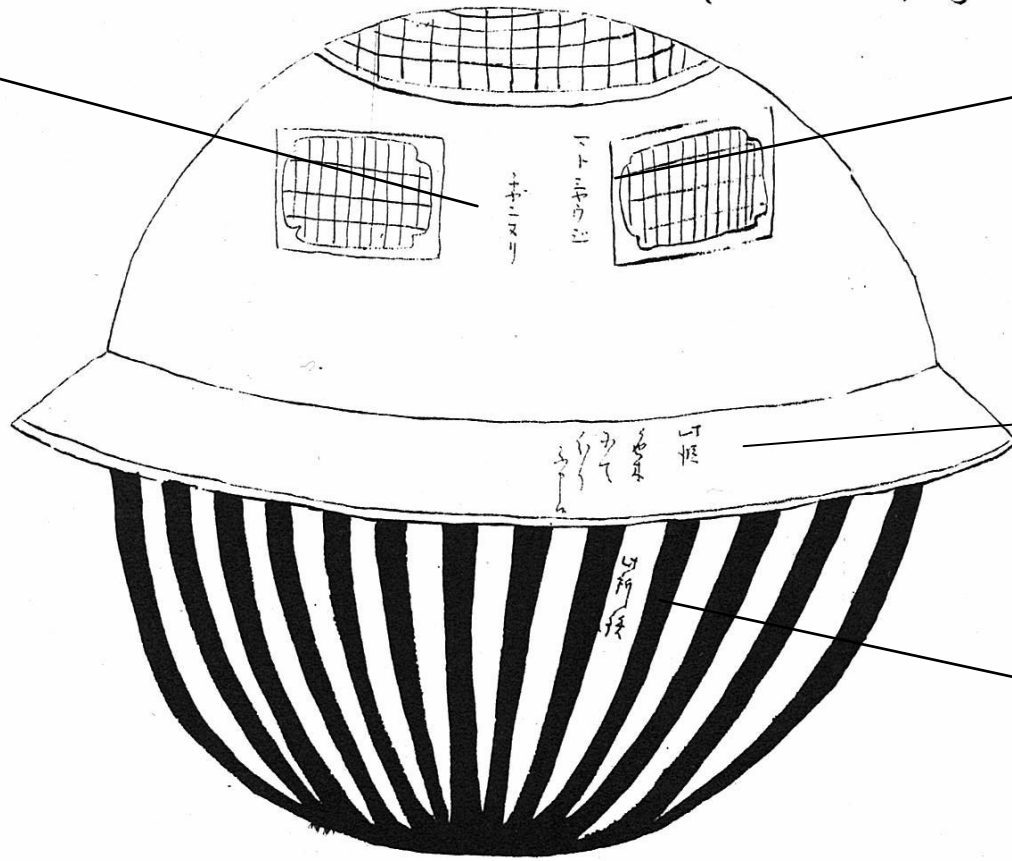
白ッせまね



船中に此の文字
多く書有之候

船中に此の文字
多く書有之候

チャニヌリ



マトシヤウジ

此段
かせ木
にて
分り
不申候

此所鉄